

「黄色い銅鉄船」アトリエ
1930(昭和5)年12月

前進、
前進、
前進。



《マリオネット》1930(昭和5)年



《檸檬持てる少女》1923(大正12)年

未だ未知な
ものに対する魅力、
激情に対する魅力、
若いと云ふ事に対する魅力。

「手紙」『美術新論』1931(昭和6)年3月

「私の感想」『アトリエ』1924(大正13)年4月

この二つの道、
絵画的要素と
味との二つの世界が、
ぴったりと溶け合ひ
生かし合った美しさが、
今の私の描きたい
ものなのです。



《兄及び彼ノ長女》
1924(大正13)年

特別展

三岸好太郎を追いかけて

Message from Migishi Kotaro

2018 9.15(土) → 11.25(日)

開館時間／午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休館日／9月18日(火)・25日(火)、10月1日(月)・9日(火)・15日(月)・22日(月)・29日(月)、11月12日(月)・19日(月)
主催／北海道立三岸好太郎美術館

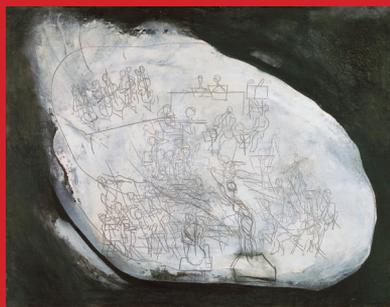
mima 北海道立三岸好太郎美術館
MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

〒060-0002 札幌市中央区北2条西15丁目 TEL: 011-644-8901
テレフォンサービス: 011-621-7000

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/>

反動、反動、反動である。
自分の転換を变化と見るか
発展と見るかは各自の自由である。

「転換」『独立美術クロニク』9号 1933(昭和8)年8月



《オーケストラ》1933(昭和8)年



《乳首》1932(昭和7)年

「モテイフに就て(A)」『みつゑ』1934(昭和9)年5月

反動の反動、
否定の否定(弁証的進化)
云ひ換へれば益々拡大する
可能性を持つ円周を廻る
循環的進歩の
法則である。



《コンポジション》1933(昭和8)年頃

而シ押エラレタ
ピンヲハネノケテ
再び飛び出ス事ハ
自由ダ

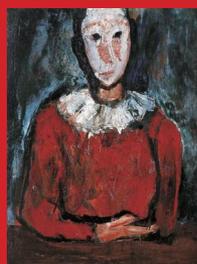
「蝶ト貝殻(視覚詩)」
「アトリエ」
1934(昭和9)年5月



《海洋を渡る蝶》1934(昭和9)年
国際興業株式会社蔵



《旅愁》1934(昭和9)年
国際興業株式会社蔵



《道化》1930-31(昭和5-6)年頃



《見物客》1933(昭和8)年

感情を表現しようとする力
(一つの創作作画せしめる活動力)は、
画家の衝動弾力であり人間の感情的
意欲である。

「感情と表現」『独立美術』4号 1933(昭和8)年1月

※所蔵の記載のないものは
すべて当館蔵

特別展 臨 展 示 室 1-1

三岸好太郎を追いかけて Message from Migishi Kotaro

日本近代洋画史のなかで鮮烈な光彩を放った、三岸好太郎(1903 [明治36]年~1934 [昭和9]年)。三岸が画家として活躍したのは、31歳の若さで急逝するまでの10年あまりにすぎませんが、その間、新たな美術思潮を次々に取り入れながら作風をめまぐるしく転換し、片時も立ち止まることなく自らの表現を追い求めました。三岸は、なにを目指し、どこに向かおうとしていたのでしょうか。

当館では、1967(昭和42)年の開館以来、50年にわたって、三岸の画業や足跡にさまざまな角度から光を当ててきました。こうして明らかにされた三岸の多面的な魅力を、生涯の代表作を通してご紹介します。この展覧会が三岸芸術を改めて検証する機会になり、新たなアプローチをさぐる端緒となれば幸いです。



特別公開

死の数か月前に一気呵成に描いた、詩情あふれる蝶と貝殻。
左から、
《海洋を渡る蝶》——幾万ノ蝶ガ海洋ヲ渡ル
《旅愁》——トランクヨリ取り出サレタ貝殻ハ重大ナ物語リヲ始メタ
いずれも1934(昭和9)年、国際興業株式会社蔵

同時開催
展示室
6・7

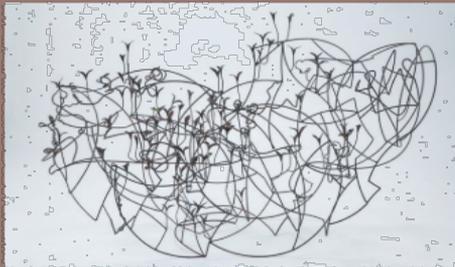


アートギャラリー北海道
mima-no-me
#みまのめ
(VOL.2)

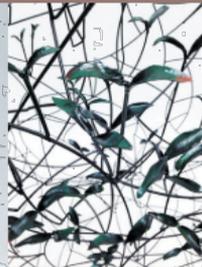
三岸好太郎は31歳で急逝するまで若々しくエネルギッシュな画業を展開。その三岸芸術を紹介する当館が今年度スタートしたのが、北海道ゆかりの若い作家を取り上げるシリーズ展「#みまのめ」です。2回目は30代の作家2名で、造形的実験を果敢に繰り返しながら絵画表現を探索する笠見康大(1982年生まれ)と、金属を用いた独自の造形により生命感を宿したイメージを紡ぎ出す佐藤あゆみ(1986年生まれ)の作品を展覧します。本展は若い作家への活動の場の提供などで北海道全体がアートの舞台となることを目指す「アートギャラリー北海道」事業として開催するものです。



笠見康大《Untitled》油彩・キャンバス 2010年



佐藤あゆみ 左:《移ろうモノ》鉄 2016年



右:《ここにいたい》(部分)鉄 2013年

イベント

アーティスト・トーク

笠見康大 / 10月6日(土) 午後2時~
佐藤あゆみ / 10月7日(日) 午後2時~
会場: 当館展示室 (要観覧料)

イベント

土曜セミナー

「三岸アトリエ、いまむかし」

講師: 和氣 遥 (当館学芸員)
東京・鷺宮にある、三岸の死後に完成した夢のアトリエについて。

10月20日(土) 午前11時~(約1時間)

会場: 当館展示室 (要観覧料)

※このほか、三岸好太郎の作品に関するトークを予定しています。詳細は別途イベントチラシや当館ホームページをご覧ください。

講演会「好太郎の夢」

講師: 三岸太郎氏 (三岸好太郎の孫、高輪画廊代表)
生を愛し、絵画に情熱を燃やした、三岸が夢見たものとは。

11月3日(土・祝) 午後1時~(約1時間30分)

会場: 当館展示室 (要観覧料)

ミニ・リサイタル

・9月29日(土) 午後2時~(約1時間)
出演: 赤塚美菜穂(フルート)、渡邊愛梨(ファゴット)、森山綾乃(ピアノ)
・11月10日(土) 午後2時~(約1時間)
出演: 千葉万里奈(ソプラノ)、板垣侑里(ユーフォニアム)、金羽美歩(ピアノ)、信山春花・原田万里花(ピアノ伴奏)
会場: いずれも当館展示室 (80席予定、要観覧料)

2018.9.15(土) → 11.25(日)

開館時間 / 午前9時30分~午後5時(入場は午後4時30分まで)
休館日 / 9月18日(火)・25日(火)、10月1日(月)・9日(火)・15日(月)・22日(月)・29日(月)、11月12日(月)・19日(月)

観覧料 / 一般 610(500)円 高大生 360(250)円 小中生 250(200)円

※同時開催となる「mima-no-me #みまのめ」もご覧いただけます。
※()内は、前売および10名以上の団体、リピーター、ファミリー割引料金。
※前売は9月2日(日)まで三岸好太郎美術館で販売。
※障害者手帳をお持ちの方などは無料。

アクセス:

【地下鉄】東西線「西18丁目」駅下車④番出口から徒歩7分
【バス】JRバス・中央バス「道立近代美術館」停留所下車徒歩4分
【駐車場】美術館駐車場(2台可。うち1台は障害者等用) / ビッグシャイン88北1条駐車場(北1条西15丁目。有料・割引あり)



2018年、美術館がつながりはじめます。

[アートギャラリー北海道]は、道内の美術館がネットワークでつながるとともに、若い作家たちへの活動の場の提供などによって、北海道全体がアートの舞台となることを目指す取り組みです。



mima

北海道立三岸好太郎美術館
MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

「三岸好太郎を追いかけて」展
本券1枚が公認で、下記の観覧料を併せてご購入ください。
一般 610円 → 530円
高大生 360円 → 280円
小中生 250円 → 200円